



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

国際連合食糧農業機関 (FAO) 日本事務所
2007年3月6日

LOJAPR07/03- No.94

プレスリリース

FAO 漁業白書2006: 遠洋漁業資源状況への懸念 公海における遠洋漁業資源の国際管理強化が大きな課題 -

ここ最近約15年において、漁業資源は概ね安定しているが、ある特定の高度回遊性魚種や公海魚種の資源量については、極めて憂慮する状態にある。

FAO がその資源量を分析・評価している漁業品種のうち、25%は過剰に利用されている(overexploited) (17%)、枯渇している(depleted) (7%)、または枯渇からの回復段階にある(recovering) (1%)と、本日発表されたFAOの「世界漁業・養殖業白書」(SOFIA, State of World Fisheries and Aquaculture)は報告している。(定義については、下記参照)

これらの数値はこの15年間概ね変化がなく、比較的安定している。

しかしながら、ある特定の総て公海か又は一部公海の漁業品種の資源量について、中でも定期的に領海内と公海を移動するいわゆる「排他的経済水域の内外の漁業資源」や高度回遊性の鮫については、極めて憂慮すべき状況にある、としている。

高度回遊性の鮫の資源量の約半分以上、及び公海上と排他的経済水域の内外の漁業資源の約66%については、過剰に利用されているか又は枯渇している、とされており、これらの品種には、メルルーサ(ヘイク)、大西洋タラ、ハリバ、オレンジ・ラフフィー、バスキン鮫、クロマグロが含まれる。

「全世界の漁業資源において、資源量としてはこれらの品種はごく僅かを占めるに過ぎないが、海洋生態系において、これらの資源状況は大変重要な指標である。」とFAO野村一郎水産局長は言う。

加えて、世界漁業・養殖業白書(SOFIA)は、漁獲量の報告があるのは大きな公海についてのみで、全体としては公海での漁獲量評価・監視が不十分であると、それがあある特定品種の公海での漁業資源量の正確な統計の作成を困難とし、ひいては品種管理にも悪影響が出ている、としている。

課題となる海域

全海産物種において、十分に利用されているか、または持続可能な最大限度を超えて利用されているかの割合は、海洋地域によって異なっている、とSOFIAは指摘する。

最も問題となっているのは、南東大西洋、南東太平洋、北東大西洋、及び太平洋とインド洋のマグロ漁業領域である。これらの海域では、約46% - 66%の漁業資源が過剰に利用、枯渇、又は枯渇からの回復段階にある、としている。

「これらの傾向は、世界の海洋の潜在的漁獲量がほぼその限界に達していると考えられ、枯渇した資源回復のための、より一層の注意深く効果的な漁業管理の必要性を改めて浮き彫りにするものである。」と野村氏は主張する。

不十分な多国間管理体制

また、本日発表された報告書では、漁業管理における地域協力促進の為に設立された多国籍機関である世界の地域漁業管理機関(RFMOs)を、より一層強化するための改革が必要である、と論じている。

これらの機関は - 既存で39機関、更に数機関の設置が計画中 - 、各国漁業領域間、各国領域と公海間、または公海においてのみの、共有もしくは排他的経済水域内外の漁業資源の過剰利用を抑制するという、極めて現実的な働きしか果たしていない。

ここ近年、これら機関の管理能力向上の試みにもかかわらず、「RFMOs加盟国のうち数カ国については政治的協約がないこと、又、頑なに適切な地域漁業管理を緩めようとする立場が、他のRFMOs加盟国が資源保護・管理について会合したり主張したりすることを、行き詰らせまではしないものの、阻もうとするのである。」と報告書は述べている。

「漁業資源の保護並びに一層効果的な漁業資源利用管理の為にRFMOsの強化という問題が、国際漁業統制では大きな課題として依然残されたままなのである。」と報告書は結論づける。

RFMOs改革問題は、今週3月5日から9日まで開催される第27回FAO漁業委員会(COFI)でも当然議題の中心となると考えられる。COFIでは、同時にまた、漁業と養殖業の生態系的アプローチ、遠洋漁業、保護海域、なくした又は捨てられた漁具のもたらす危険、密漁等、他の多くの問題についても話し合われる予定である。

報告の概要

海面漁業資源状況

- ・ 52%の資源が十分に利用されている、としている。つまり、持続可能な最大限度生産レベルかほぼそれに近い、ということである。
- ・ 20%がほどほどの利用
- ・ 17%が過剰に利用
- ・ 7%が枯渇
- ・ 3%が十分に余裕がある利用
- ・ 1%が枯渇からの回復段階

自然漁獲量は年9,500万トンという記録的な量に達した。内訳は8,580万トンが海面漁業、9,200万トンが内水面漁業である。

世界の漁業総生産量(海面漁獲量+内水面漁獲量+総養殖生産量)は、年1億4,160万トンにのぼる。このうち、約1億560万トン(75%)が食用となっている。残りは非食用、特に魚肉や油脂生産に利用される。

水産養殖業は、未だに世界で最も目覚ましい成長を遂げている食産業であり、その生産量は毎年4,780万トンにも達している。又、自然漁獲量が下降傾向であるのに伴い、養殖業はより一層多くの魚、また食物を供給している。実際、1980年には食用のわずか9%にしか過ぎなかった養殖物が、今日では食用の約43%まで占めるに到っている。

魚・魚製品は世界で最も多く取引されている産物である。世界の魚・魚加工品貿易量も記録的な額に達し、輸出額は7,150万USドル、2000年から比べると実に23%の上昇であった。

参考:用語定義

- ・十分に利用(Fully exploited): 一層拡大の余地のない、最適生産限界かそれに近い漁業
- ・ほどほどに利用(Moderately exploited): 生産がそれほど限界に達していず、一部ではまだ拡大生産の余地あり
- ・過剰に利用(Overexploited): 長期的持続可能な生産のレベルを超えての漁獲がなされており、これ以上の生産は資源の枯渇をもたらす恐れがある。
- ・枯渇(Depleted): 実際の漁獲高に関係なく、とにかく漁獲量が歴史的に見て異常に低い
- ・十分に余裕(Underexploited): 未発達か新しい漁業、将来大いに拡大生産の可能性がある
- ・回復(Recovering): 枯渇していたが、漁獲量が再び増加しだした漁業
- ・遠洋漁業資源(High-seas stocks): 排他的経済水域外(沿岸から200マイル以下)の漁業資源、但し、所謂「定住性種」といわれる、沿岸国海域の海底か海底中で動かない、または同じく沿岸国の主権海域にある海底もしくは大陸棚底土との頻繁な接触がなければ動けない品種は除く
- ・回遊性漁業資源(Migratory stocks): 海面漁業品種の中で、一生のうちに長期に渡り回遊し、通常2カ国以上の排他的経済水域及び公海を跨っていることが多い。普通は、高度回遊性マグロ又はマグロ系品種、タケノコガイ、メカジキを指す。
- ・排他的経済水域内外の漁業資源(Straddling stocks): 漁業資源のうち、排他的経済水域内、且つ排他的経済水域に隣接する海域または水域外にもある資源

お問い合わせ先:

FAO日本事務所 担当 宮道・武本

TEL: 045-222-1101 FAX: 045-222-1103 Email: FAO-Japan-Info@fao.org